

# 生命の不思議 発生の神秘に魅了され 研究者に

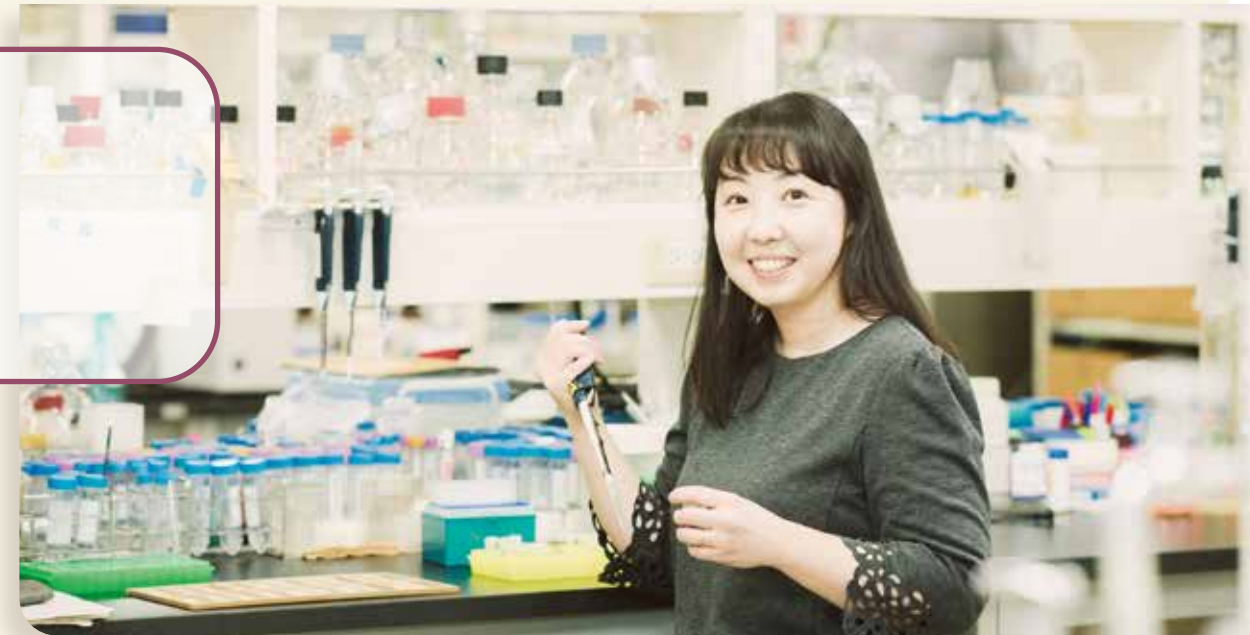
## Role Model 10

### 畠山 淳

発生医学研究所助教

理学部 → 大学院（修士課程） → 国立研究所（技術員） → 大学院（博士課程） → 大学（研究員） → 大学教員

**Profile** はたけやま・じゅん 2000年熊本大学大学院自然科学研究科（修士過程）修了。その後、岡崎国立生理学研究所にて技術員として働き、研究の面白さが忘れられず2001年京都大学大学院医学研究科（博士課程）に入学。2005年に医学博士を取得後、熊本大学発生医学研究センターに研究員として着任、2009年から現職。2002年学振特別研究員DC1、2006年学振特別研究員学振PD採用。



## 図鑑でからだのしくみを じっくり眺めた幼少時代

幼少期の頃からお腹の中の赤ちゃんがどうやって育つのか不思議でたまりませんでした。旺文社学習図鑑『人間とからだ』で、受精から生まれるまでのページをよく眺めていたのを覚えています。その興味は今も変わらずに続いています。私の専門は、まさに発生学。好きなことをやってきたら、自然と研究者になっていました。また、曾祖父も祖父も学者、親族にも多数の学者がおり、その環境も研究者の道を選んだことに影響していると思います。

私は一貫して、「妊娠期間中に赤ちゃんの脳がどのようにして形成されるのか」を研究しています。神経幹細胞から脳が作り上げられる過程は、遺伝子によって緻密に制御されています。最近特にヒトの脳がなぜ大きいのか、脳のシワはどうやってできるのか、マウスやモルモット、サルを用いてその謎の解明を目指しています。この研究は、知能の獲得、小頭症や滑脳症のような先天性異常の解明にも繋がります。私の研究の原点であるヒトの発生の不思議を少しでも明らかにした

と思っています。

研究者の魅力は、好きな事を仕事にできる事、そして世界で最初に面白いことを発見できるチャンスがあることです。とても不思議な生命現象を少しでも理解できた瞬間は、たまらなく嬉しいです。あれこれと仮説を考えること自体がとても楽しいものです。

## 高校文系から 独学で理学部へ進学

高校は文系のクラスでしたが、なりたい職業を見つけられず、理系科目を独学して発生学が学べる理学部へ進学しました。大学ではとにかく、生物学を学べるのが楽しくて、講義ノートはしっかり取っていました。そのためか良い成績を取っていたと思います。空いている時間は、目一杯友達と過ごし、今でも交流が続く最高の仲間がたくさんできました。

卒業研究では、哺乳類の発生の研究がやりたくて医学部の相沢慎一先生の研究室へ。その後、京都大学の影山龍一郎先生のところで研究室の学生1期生としてお世話になりました。その時の研究が論文になった経験で、発見の喜びと論文になる嬉しさを知り、

それが研究に魅了されるきっかけになりました。その後も「やりたいことができる場所、学ぶことができる場所」、これを基準に進路を決めてきました。学部も大学の壁も乗り越えて自分で道を選んできたので、常に必死に頑張ってきたように思います。

## よきタイミングで昔からの夢が叶った

若い頃からの夢だった「お母さんになること」が実現したのは40歳を過ぎてからでした。それまで睡眠時間以外は休みも含めて全部研究に当て、限られた時間のなかで旅行に行ったり友達と遊んだりしてリフレッシュしていました。現在は、週末と平日の朝と夕方は「母親業」があるので、研究に費やす時間は減っています。逆に言うと、それ以外は夜も含めて仕事をする事ができています。ストレスなく楽

しく両立できているのは、家族や研究室の皆さんのサポートがあるからこそです。周りとの信頼関係をしっかりと構築できているタイミン



## 好きなことは？

料理、ブライダルブーケ作り、絵を描くこと、などの創作活動。どれも作り上げる喜びを感じます。マウス胚やサル胚を眺めることも飽きません。

一緒に謎解きしてくれる学生さんを募集中！